

新宿区民会議 第1分科会会議録

第22回 第1分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年5月8日(月) 午前10時～午後0時	記録者	【学生補助員】 天野、古谷聡子
		責任者	区事務局(菊地、荻原)
<p>会議出席者：23名 (学識委員：2名 区民委員：16名 区職員：5名)</p>			
<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第21回会議録 ・第2回最終提言WG まとめ ・提言書(案)の確認について(事前送付) ・新宿子育て情報ガイド ・区民委員からの提案書 <p>進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の進め方について 2. 最終提言WGからの報告 3. 提言書(案)の確認 4. その他(事務局) <p>会議内容</p> <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の進め方について :(司会 リーダー) <p>本日の進め方ですが、皆さまのもとに資料を送らせていただきましたので、事前に目を通していただいております。各項目について修正するようなどころがありましたらご意見をいただくといった形で進めていきたいと思っております。また、前の黒板に仮の大項目が赤い字で書いてあります。これを皆さんで検討していただきたいと思っております。</p> <p>19日までに最終的な原稿を出さなくてはなりません。第一分科会の会議が15日にありますので、その際にまとめたものを見ていただきたいと思っております。このように今日の会議を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず議題に入る前に、皆さんのお手元に「新宿子育て情報ガイド」という小冊子がございますので、この説明を先にお願いたします。</p> <p>:(菊池)</p> <p>子育てに関する情報が網羅されております。この冊子を第一分科会で活用していただければ、と思っております。</p> <p>:(司会 リーダー)</p> <p>ありがとうございます。皆さん十分に活用していただければ、と思っております。それでは議題の方に入ります。WGからの報告ということで皆さんの所に資料(配布資料)が配られていますので、WGの方ご説明をよろしくお願いいたします。</p>			

2. 最終提言 WG からの提言

: お手元にあります「第二回最終提言 WG まとめ」に書いてありますように、このような形で進行することになりました。チラシ・ポスターは、前回高山さんのお嬢さんをお願いして好評だったということですので、私たちのグループでも是非高山さんのお嬢さんによろしければお願いしたいということで、お願いしましたところ快くお受けいただきました。

私たちは当日の運営に焦点を置いて話し合った結果、資料のような事になっております。発表の内容につきましては、先週の段階でどういったものが上がってくるのか、ということが、未だ分かっておりませんので、その辺のことは分かってきた時点でどうするかを検討することになりました。式の時間は資料の通りになっておりまして、午後からです。第一部では内容についての説明。第二部の方では形式的なセレモニーで提言書を区長さんに手渡すということになっています。また第二部の方で、学識経験者の方に第一分科会から第六分科会で色々ご指導をいただきましたので、ぜひご紹介させていただいて、その際にコメントもいただくといった形にするということになりました。以上です。

: (司会 リーダー)

ありがとうございました。この形で行うということで決まりなのですね。

: はい、こういった時間配分になっております。

: (司会 リーダー)

6月25日の13:00~16:00までであるということですね。では皆さん、6月25日に提言書提出ということで、WG でまとめていただきましたので、また当日の方もご協力よろしくをお願いします。

3. 提言書(案)の確認

: (司会 リーダー)

では、提言書案の検討をしていただきたいと思います。皆さんの意見を聞く前に、学識委員の杉山先生に意見をまとめていただいておりますので、お話を伺いたいと思います。

: (杉山)

まず、「持続可能な社会に向けて…」なのですが、他の中項目に比べて長いので、もう少し削ってください。特に将来のあるべき姿が長いので、ここをもっと短く簡潔にして、特にネガティブな表現や現状は削れるのではないかと思います。また子どもの参画についていくつか書いてくださっているのですが、解釈が他の方と違うようなところがありますので、子どもの権利のところでは良いかと思えます。現状と課題のところは5つの提案をしていただいておりますが、この5つが後半の小項目と対応していないので、ここは取っても構わないのではないのでしょうか。他の中項目を書いてくださっている方が、こういった打ち出し方をしていないので、ここはなくても後ろの小項目で同じ事を言っているのでは良いかと思えます。また小項目の中盤以降ですけれども、青少年に社会

貢献の実感持たせるためのプログラムやその後の10, 11, 12項目は分科会の中で十分議論をされているとは言えないので、話し合いが必要だと思います。

中項目の課題は、「持続可能な社会」「公園」「江戸」にあると思っています。大項目の中のどこに入るかといった時に、この中項目は1番に入れたいと思っています。その後、視点を広げた形で地域にミクロで入ってくるのではなくて、大きなビジョンで見るという位置づけかと思っています。公園とか江戸といったキーワードが、他の分科会では緑とか文化といったものに繋がり、応える形になると良いので、そのあたりをもう少し膨らませたいです。

次に「母親・父親として、働く者として、地域人としての多様な生き方設計支援」ですが現状と課題を、もう少し短くできるかと思っています。ここで、教育について色々語っていただいています。教育は家庭教育、生涯学習、市民教育、環境教育、学校教育と色々あり、対象も子どもが対象の教育と大人が対象の教育があるので、ここでどの教育を言うのかということです。家庭教育に特化するのか生涯学習に特化するのか、市民教育も入れていくのか、ここで何をに入れるのかといったことをもう少し話し合ったら良いですね。ここは親教育といったことからスタートしているので、親向けの支援教育がもともと皆さんの思いも強いですし、地域の人への教育については別のところでやった方がすっきりします。親教育のところでは職業・仕事のこと、仕事と家庭のバランスをどう取るか学んでいくことが入ったらよいのではないかと思います。教育は他の分科会でほとんど議論されていません。大人が市民として自立していくために何が必要か、といったことを考える分科会はここしかないので、必要であれば子どもに関係のない大人のことであっても入れていくのが良いかと思っています。

次に「子育ての社会化と子育てを核とした地域づくり」ですが、ここは地域をベビーカーで移動できる範囲といったように明確にしているので、他の分科会にとっても良いですね。居場所空間、緑の植え込みといったハード面でのまちづくりにも注文をつければ具体化するのではないのでしょうか。地域がやるべきこと、親がやるべきこと、行政がやるべきこと、協働でやるべきこと、といったように主体が何処なのかといったことを意識しながら見ていくとより分かりやすくなるかと思っています。

次の「青少年の自立と社会参画支援」は、今「楽しもう新宿」のほうにおさまっているのですが、どこにおいたらいいかということをおさまで相談していただきたいです。また、そもそも「楽しもう新宿」自体一体どういうことか分からないので、第一分科会として議論して大項目の解釈を提案してみてもどうでしょうか。第一分科会のほうで、全体構成について議論してもらいたいと思います。

細かい内容ですと、産官学ネットワークづくりの「社会起業家育成」がありますが、産官学ネットワークの目的は社会起業家育成に限らないで、どんなところにもネットワークはしておいた方がよいという気がします。また青少年の問題に、若者の居場所がない、若者向けの情報提供の機会が少ないといった議論が出ていたのですが、見当たらなかったのもっと言及してほしいです。また少年犯罪はあまり議論されてこなかったので、このままスルーするのかどうするか。青少年に期待すること、地域の大人に出来

ること、学校行政に出来ること、みんなで協力してやること、といったように主体をどこに置くのかの整理をしてみると良いかと思えます。

次に「子どもの権利を実現し子どもが市民として参画するしくみの創造」ですが、これは第六分科会から大項目の4番ではなくて2番に移ってくれないか、という提案がなされているところです。ここの辺りを皆さんと議論したいと思っています。また子どもの権利条例を作る、作らないといった話がありましたが、その話が出ていませんでしたので気になりました。最後、教育ですが、今まで乳幼児のところの議論が多くて、学童期について話を十分出来なかったので、全員が納得できているかどうか分からないので時間を割いて議論しても良いかと思えます。

また、どこかに入れてみてはどうかというテーマとして、新宿区内の格差については言わなくて良いのかと思えます。虐待を受けている子どもと家族への対応や虐待予防といったところが足りないように感じました。秋田さんもお書きになった不登校の子どもの問題、不登校の子ども居場所の問題や、教育費、給食費など親の所得格差による子どもの教育格差をどうするかも考えたいです。子どもが企業にとっての商品購買のターゲットとして見られている、といったように子どもを消費者としている問題があります。また子育てバリアフリーの問題があります。また、他の分科会にもっと言ってもらいたい、といった注文をつけていただいたら編集委員会をお願いしていきたいと思っています。プリントアウトがありますので、そちらのほうで詳しく見ていただきたいと思えます。以上です。

:(司会 リーダー)

どうもありがとうございました。では次に汐見先生からも感想をいただきたいと思えます。

:(汐見)

全体がオーダーの違うものが平板に並んでいる感じがします。折角の提案ですので立体的にした方がアピールが力強いでしょう。持続可能な社会をつくるといったようなことは、具体的な案がすぐに出てくるものではなく、新宿区が目指すべき大きな方向目標となるものです。その方向目標になるようなものが小項目の形で入ってきています。例えば、「江戸」のところで伝統を見直して未来に伝えるといったことは、簡単に出来ることではなくて、このこと自体がこれから日本社会をつくり変えていかなければいけない時に柱になる物の考え方です。そうすると、これは小項目ではとてもないです。持続可能な社会に向けての子育て教育環境に出てきているユビキタス社会を生かすということがあります。ユビキタスというのは普遍的といった意味ですが、コンピューターやIDが利用できるようになるには具格的にはどういったことをしていけばいいのかといったことが、沢山出て来ます。このとき、ユビキタス社会というのは大きな目標となるだけではなくて大項目になります。これからの新宿が目指さなくてはいけない方向を出してそれをもう一度整理してみて、それを表の縦の欄に書いていきます。例えば、三世代がもっと生き生きと交流しあうまち、若者にもっと優しいまち、子育てに優しいまち、散歩したくなり集いたくなる新宿といったことが大きな柱となります。例えば、持続可

能な社会を作るために、それぞれのセクションは、三世代が生き生きと交流出来るようにこういった事に取り組みたい、というように立体化します。そうしなければ、具体化されにくいもの、すぐにイメージわくものが区別化されないで平坦に並んでいるために、折角の提案が構造に欠けてしまっている。個別のプランを提案したばかりでなく街づくりの方向目標を出して理念に基づいて行動しているところが評価されるとすれば、そういった構造にしなければいけない。ということが一番の感想です。

:(司会 リーダー)

ありがとうございました。具体的にはどういったものかが、よく見えてこないのですが。

:(汐見)

方向目標図と中項目が立体図になるようにします。例えば、青年の自立支援はどうやって行っていくのかと図を見たときに、縦に見ると具体的に分かり、横に見ると、どういった新宿を作ろうとしているのかが浮かんでくる図にしたらどうかということです。ですから新しい事をするのではなく、あるものを図に当てはめて立体図にしていくために、図にあうよう書き方を工夫するというだけのことです。

:(杉山)

違う大項目を提案することは出来ないのですが、これはどういう意味だろうという、もっとこういうふうにしてみてもどうでしょうか、といった提案をしていくことは十分可能です。特に「楽しもう新宿」は産業・文化・観光でやっていくことになっていて子どもが入っていません。ですので、子どもを入れるようにという提案をしていかなければ、縦割りの提言になってしまいます。

: エリアごとに分ける必要はないのではないのでしょうか。例えば持続可能な社会というのはエリアで分けるようなものではないです。第三分科会の大項目を押し付けられ「楽しもう新宿」を見た人は、何のメッセージも受け取らないので、提言の大項目にはふさわしくないとします。

:(司会 リーダー)

あくまでも、まだ仮の段階です。まとめる際に大項目がなければ整理しにくいだろうということで、ひとまず4つ出し、良くなければ新たに作っていきこうということで話は進んでいます。大項目が第一分科会の方で合わないということであれば、何かかわりに主張できるものを提案していただいて構わないと思います。

:(杉山)

分科会ごとに提言を出す形でも、全分科会がまとめて提言出す形でもどちらでも良いということでしたが、せっかく第一から第六までおこなっているのだから、シャッフルして提言を出すことになりました。

: けれども実際に合わないということが生じてきているのですから、今回は全部の分科会でまとめるということはずに、各分科会ごとに提言をすれば良いのではないのでしょうか。

: WG に出ている感じていることは分科会意識がとても強いということです。みなさん

苦労して作ってきたものを、こういったように項目に落とし込んでしまうことに他の分科会でも抵抗があるのではないのでしょうか。

:(杉山)

大項目がなければ、小項目を書くことが出来ない。小項目を書いていく段階のためには必要ですから、ひとまずこの形でやってみて、その後で、もし合わなければ後、合わなかったことが確認できます。

:(司会 リーダー)

先ほど汐見先生がおっしゃいましたように、持続可能な社会をつくるために・・・といったことを大項目として考えていっても良いと思います。

:中間発表の際のフォーマットを改良すればどうやったら持続可能な社会になるかという具体的な案を出さなくてはならない。最後に小項目を書くというのでは話し合いの意味がないです。

:(司会 リーダー)

板書に書いてある大項目はあくまでも仮です。ですから、そこに各分科会が話し合ってきたことを落とし込んだ時、その仮の大項目であるかどうか、そこを議論するということになっています。

:(杉山)

そうしたら、どのようにしたら良いと考えますか。

:やはり各分科会にわかれてマトリックスを作成し、中間発表のものもまとめることが最も自然だと思います。そのようにすることで、今までの話も無駄にならずにかつまとまりやすくなり、各分科会の会議の場においても調整しやすくなります。

:(杉山)

すごく仲間意識が強くなると思うのですが。

:(司会 リーダー)

気持ちはわからないでもないのですが、編集部会の意見の流れとしては各分科会ではなく全体をシャッフルした形で入れると一応決まっていますので、もう一度それを蒸し返すことはなかなか難しいと思います。しかし、このまとめ方にも問題があるのは確かです。

:(杉山)

例えば第六分科会では協働や参画を中心に議論しています。ここで私たちから「そこで子どもの参画についても話し合ってください」と申しあげないと取り上げてもらえないのです。ですから、第一分科会で出た事を他の分科会にも提示し、このような視点の考え方もあると示すことが必要なのです。ここでもし、各分科会からそれぞれの考えに基づいた協働や参画の意見が出てくると、読んでいる人はどれがよいのかわからなくなってしまいます。

:読み手はそう読まず、オーバーラップするのではないのでしょうか。あくまで提言なのでから整合性を取らなくても良いのではないのでしょうか。

:(汐見)

全体をまとめるために各分科会のフォーマットがばらばらだとしたら読み手に「区民会議はまとまらなかったのだ」という印象を与えかねません。ですから今、各分科会の意見をまとめて一つにしようとしていると思うのです。やはり、ばらばらのものを一つにしようとする、大項目が抽象的になってしまうのは、それはそうならざるを得ません。「仮題としての枠はあるけれども私たちが考えたのはこのような目標づくりです」という方向でできないでしょうか。あくまで仮題は枕詞として…。

:(司会 リーダー)

そういうことだと思います。そのように変えてしまったことについては編集部会に持って行って提案することは可能です。

:(杉山)

小項目については編集部会でも検討していきます。

:しかし、そうすることによって中項目と小項目、大項目と中項目の関連性がなくなってしまいます。ただ居場所を決めたいだけということになります。提言書とは一つの思想のようなものがあって、それが下に下がってきて提案になるのです。汐見先生が先ほどおっしゃられたやり方は第一分科会は第一分科会でのマトリックスを作成するということに対して、従来やり方は杉山先生の戦略にでもありましたが、例えば「教育」をさまざまところに入れ込んでいくというやり方で、そのやり方ですとマトリックスは描けません。

:マトリックスを作成することというのは見やすい目次をつくるということですね。

:裏目次を作るということですか。

:(汐見)

そうではなくて、内容はそれぞれ大項目に対してこのように対応していますということを書いておいて、後は私たちの好きなように作ってしまって良いのではないのでしょうか。

:このマトリックスは提言書のどこに入ってくるのですか。

:(汐見)

最初の部分です。第一分科会の構造はこのようになっていますというように。

:編集部会で各分科会に出ている小項目を分解してまとめているという作業の中で、第一分科会としてこのようなマトリックスを出してしまって良いのですか。

:(司会 リーダー)

提案することは特に問題はないと思います。ただ、またばらばらにされてしまうという可能性もあります。

:逆に他の分科会が「私たちの分科会はこうです」といいたいくなる可能性もありますよね。

:(司会 リーダー)

それはすでに出てきています。

:資料として表は入れられるのですか。

:(汐見)

全体のことまでの責任を私たちは考えなくて良いのではないのでしょうか。私たちの分科会はこのようにやっていますということだけで。

：私も先生の意見と同じです。これだけやって、たったこれしか出ないのということに対してむなしくて仕方ありません。

：(汐見)

区民としてここまでやりました。これを元に基本計画等を考えてくださいということだと思います。

例えば二重の提案はできないのでしょうか。

：(司会 リーダー)

例えば、ここに出ている中項目についてはみなさんで決めたので、先ほど先生が提案されたマトリックスの中に当てはめていくというのは、つまり、第一分科会のマトリックスの中に出てくる大項目の表題として使ってみるということです。それを編集部会へ持って行き考えてもらうということでしょうか。

：(汐見)

中項目としてここでまとめた7つについてはできるだけ手を加えず、それを最大限生かすという方向で、ただ、「学校」というテーマが新たに出てきたので、その議論を重ねていかなければなりません。例えば「授業を良くする」とはいつでも、それをどのようにして良くするということは議論されていません。また、学校教育について不満があったとして、区民として行政と一緒に変わっていくシステムがないということが問題なのです。ということなので、中項目の7つはこれで置いておいて、新たな項目としてこれに加え、その方向性の位置づけをまた新たに行なえば良いのではないのでしょうか。そして、これが私たちが議論してきたことのまとめですということで提出することがすっきりいくのではないかなと思います。その中から、全体を配慮したときに大項目のどこを使うかということは、分科会のメンバーでは考えられません、ということでよいのではないのでしょうか。

：部分的に抜き出されても困りますしね。

：(汐見)

そうですね。そうでないと私たちで責任はとりきれません。

：(司会 リーダー)

議論が尽きないところですが、とにかくそのようなかたちで文章にしなければならぬということで、文章にしたものがこれになっているわけですが、その内容について問題になるようなことはないのでしょうか。

先ほどの杉山先生からの提案も踏まえていかがでしょうか。

今日、お見えになっていませんが小津さんから、最初の「持続可能な社会～」という中項目に「茶屋」と出てくるのですが、あまり「茶屋」という言葉を出してしまうのはどうなのでしょう、というような細かな意見もありますが、いかがでしょうか。

：(汐見)

新宿区で自然と環境、国際都市というものがあって、縦の目標のところ、国際都市

というのはアジアが新宿区は中心ですね。大久保地域を含めて、そこを新しい21世紀型のアジアが私たちの周りに出現するという社会になるということで、そこでさまざまな国から来た人も自由に往き返るような、新しい国際都市 - ヨーロッパに行ったら必ずあるわけなのだが - 、やはりさまざまな問題を抱えましょう。

目標に入っているわけなのですが、「国際都市にしていこう」という視点が弱い気がします。スローガンとしては入っていますが。けれども、それで具体的にどうするかということで、例えば子育てで困っている外国人の親たちに対して、「新宿のまちの人たちは温かいね」というまちをどう作っていくのかということが十分に入っていない。だから、その辺りを強調して欲しいなと思います。

：私もそちらの活動をしている人間としては、読んでみて、全体の総論としては「外国人を支援しましょう」、「外国人と共生しましょう」という文章は入っているのですが、具体的なことは入っていなかったかなという感想を受けました。それについていくつか項目を挙げて文章にしてみました。しかし、それをどのように提言していったらいいのか私にもわからないところがあるので、中項目を編集していらっしゃる7名の方にお伝えすれば良いのかなと思っています。

：(汐見)

中項目の中にどんなものを入れて欲しいかももう一度考えてもらえればわかると思います。

：(司会 リーダー)

ほかに秋田さんから青少年関係、ニート問題についての提案をもらっています。これは教育関係になるのでしょうか、不登校の内情表づくりというものがあります。両方ともこの提言書中では弱いところですので、入れられればと個人的には考えています。その辺りはいかがでしょうか。

：戻るようなのですが、そもそも提言の仕方がプロットタイプを提言するという方向で環境としては考えていまして、持続可能社会を実現するためには地域では何をしなければならぬ、ビジョンはこうしなければならぬ、と全体をいうのではなくて一つのプロジェクトとして、具体的レベルではこうする、目標レベルではこうするという視点で考えてきたので、すべて一貫性がないとだめかなという考えを最初から持っています。それらを重視するから「茶屋」になるわけで、伝統文化を重視するという提案を受けていなければ「カフェ」でも良いと思うのです。ただ、提案に一貫性がないとだめなので「茶屋」になってしまったわけで、そこへ「カフェ」を入れてしまうと一貫性がなくなってしまう。ですから、当初のプロセスデザインをどのように実現するかという視点で考えたので、全てが偏ってしまった。しかし、一つの具体的提案で、これをプロットタイプにしていけば実現するのではないかという方法論の提案なのです。だから偏ってしまうのは当然という気がします。

：(司会 リーダー)

気持ちはよくわかります。ということで、下のほうに「茶屋のようなもの」と記されていますし、それで良いのではないのでしょうか。

:(汐見)

私が言っているのはやはり、伝統を重視するだけではだめなのです。先ほど「伝統を未来につなげる」という話がありましたが、伝統は大事にするから大事になるわけではありません。「未来を良い社会にするために伝統に注目しよう」ということですよね。だからそういうことをそれぞれはめこんでいって欲しいということなのです。そうすると抜けているところも出てきます。「伝統を未来につなげる」というとひょっとしたら三世代交流も伝統を未来につなげる現代風の方法なのです。それらをうまくはめ込んでいけばよりわかりやすくなり、また弱いところも見えてくると思います。

:(司会 リーダー)

話が飛びとびになっていると思いますが、次の15日に最終的な原稿を作り上げる作業になりますので、先ほど汐見先生からもあった提案も踏まえて整理をすればできないことはないと考えます。

そうするとわれわれとしての縦軸に表題を4つくらい考えて、横軸に中項目をいれていくということでしょうか。

:(汐見)

そうです。

さっきも少し出しましたが「国際社会」が弱いということで、それもここに入れるかどうか。

それから「伝統文化を世界に発信」とありますが、それはあまり必要ないと思います。例えばスペインのどこどこで昔からこのようなことをやっていますということ、みんな世界に発信しているわけではないのです。しかし、伝統を世界に発信しようとする世界との折合いを考えざるを得なくなり、発信できなくなってしまう。だからこれは必要ないというのが個人的な思いです。

世界の人がわかってくれなくても私たちが大事にしたいのだということで、やがて世界の人認めてくれるという関係だと思ふのです。

だから「伝統文化の正しい伝承」ということは良いのですが「世界へ発信」をやってしまうとかえってしんどくなるなという思いです。

それから、全体の文章を見たときにいろいろ課題がでてくる。でも課題しか出てこなくて、これもしんどくなる。だからまずは、日本は今までこんなことをやってきた、こんなことをがんばってきたということも入れて、その上でこんな課題が現状としてあるという書き方のほうが良いと思います。もう少しポジティブなことを書きながらまとめたいかないと、読み手が嫌になってしまうと思います。

: 次回に先生のおっしゃるマトリックスの作成で終わってしまうと、それをつめきれ作業ができないと思うのです。だから、今ある文章を書いている人以外の人に読んでもらい、手を入れてもらうということを宿題にしてやっていかないと間に合わないと思うのです。そうしないとみんなが納得する物にはならないと思うのです。そうしないと、また議論が錯綜して議論が進まなくなると思います。

それから、先日おこなった「働き方の見直し」のワーキンググループでの資料を今日、

提出できなかったので次回までに事前に送れるようにします。しかし、実際に書いてみると、小項目ではおさまりきれなくなってしまうのですが、中項目はもうこれ以上増やすことは無理でしょうか。

とりあえず、中項目として書き出すので、もしそれを解体して書くのであればそれは編集部会でやっていただけたらと思うのですが、よろしいですか。

:(司会 リーダー)

少し、ばらばらになってきてしまったのですが、一回会議をしてまとまるものではないので、宿題にしてみんなで考え直してという話になっていますが、要するにまとめてもらったものは表現の仕方を調整すればすむと思うのですが。そうでもないですか…。

: 中項目の下の小項目を分解するということですか。

:(司会 リーダー)

分解はしません。そこは編集部会でも手をつけないという話になっています。

:(杉山)

先ほど、全体のことはこの分科会では責任は負えないという話になりましたので、ここはここで行えばよいと思います。

:(司会 リーダー)

先ほどのマトリックスの作成については編集部会に持っては行きますが、それが採用になるということは、約束はできないのでそれはこの分科会としての独自の作成ということになります。

: 例えば、このマトリックスの作成の作業を何人かが代表して作ってもらってそれをみんなに見せて納得できるかということの評価してもらえばよいのではないのでしょうか。

: 本当は見出しとして全分科会でこのようなもの作成し、つけてもらったほうがわかりやすいと思います。

:(司会 リーダー)

全分科会の中項目についてはみなさんのところに届いていると思います。多少、変更・追加があると思いますが、それは今のところ整理されているということで、その通りになるとは限りません。

: 今回、事前に配布された提言書と中間発表で配られた提言書を読み比べてみて、中間発表で配られた提言書のほうがずっと読みやすかったです。また、これは新宿区民の会議ですから、新宿区がどうなるかということを考えなければなりません。しかし、現状として、よそのことばかり入れて大きくしわからなくしているという印象があります。ですから、この区民会議とは何だったのかを、それぞれが考えなければいけません。みなさんの意見を聞いていると、どんどん広がって中心がずれてしまうのです。

そして、一番わかりづらかったのが、「持続可能な社会」のところで、字はわかります。しかし、内容としてどのようにしていけば「持続可能な社会」になるかということがないのです。これは言葉だけでは難しいと思います。

それから、同じ項目が何回も出てきます。これもおかしいと思います。

ですから、私は中間発表で配られた提言書をもっと発展させたほうがわかりやすくなると思います。

：例えば教育をめぐる問題、例えば国会でも取り上げられていますが「愛国心の問題」があります。本来、このように教育をめぐる問題というのは議論が必要なのです。そして、それが民主主義の場合は、お互いの意見を主張し、最後にまとめる時は「私の意見を入れろ」ではなくて、そこには何か違った物がでてくるだろうということが、今の民主主義の大原則なのです。

それで、この区民会議においても一つの挑戦だと思うのですが、限界があると思いますが、このような民主主義を取り入れることも一つの形だと思います。そのような言い方をすると、この分科会では「私の意見をいれろ」とそればかりなのです。その中に議論や対立する意見に対する議論が必要なのです。ところがそれもない。だから、この場になって「私の意見をいれろ」というやり方そのものを否定するということです。

だから、私はここで、今後どのような形が区民として良いのかまとめなければいけない。多少、自分の意見が入ってなくても割り切らなくてははいけないと思います。そうしないと、提言書に個人個人の意見を並べるだけになってしまいます。

みなさんの気持ちについては、編集部会もコーディネートしてくださっているお二人も重々理解してくださっているはずです。

ですから、この辺りでどうでしょう。手を打ちませんか。

：ですから、第一分科会でマトリックスを作るか、作らないか、そこが決まらないと話が進まないと言っているのです。

：(杉山)

ですから、作りたければ作ってくださいということなのです。

ただ、今まで編集部会で話し合ってきたことをひっくりかえすことは無理ということなのです。

：ということはマトリックスの作成は無理ということですか。

：私たちは作りたいと思っています。ですので、その方向でがんばります。

だから作りたいと思っている人たちでたたき台をださせてください。

：(司会 リーダー)

そういうことだと思います。ですから基本的に全員で集まれるのは15日しかありませんし、その間にまとめていただいたものを整理していただかなければならないと思います。

：ですから、作るに際して必要な縦軸、横軸に入る項目をみなさんで議論していただいてどうするかということですね。それを決めてくだされば、後はこちらでたたき台を作ります。

：(司会 リーダー)

実は私もこのように整理したほうが自分たちのやっていることの内容が整理できると思いますので、やっていただけの方をお願いをして、それを頭に入れて次回の議論に臨んだらいかがでしょうか。そういうことでよろしいでしょうか。

それでは立候補していただける方の決定は後にしまして、先ほど問題提起として出ましたマトリックスの項目を決めたいと思います。

先ほど汐見先生から

- ・ 持続可能な社会
- ・ 三世代が生き生きと生きるまち
- ・ 市民が参画してつくるまち
- ・ 散歩したくなるまち 新宿
- ・ 国際都市

と5つ出ているのですが、あまりたくさん出てしまっても整理しにくくなると思うのですが。

:ただ、枠を決めてしまうと「教育」はなかなか入れづらいですね。

:(汐見)

その場合は「その他」が良いと思います。すべてが決まったときに調整すれば良いのですから。

また学校教育についてはもっと議論が必要なのです。それをちょこちょこつとかけるような問題でもありませんし。

:教育については議論不足だと思います。ですので、教育部会としても今書いてある物をそのまま載せてしまうことには抵抗があります。

:(汐見)

やはり部会ごと、柱ごとに濃淡がそれぞれありますし、そうなるとどこまで責任が持てるかということになると難しいことです。けれども、自分たちが考えたアイディアについては一応、すべて書いておきますという但し書きのようなものをつけておいたほうが良いと思います。そして、それを引き続き議論してくださいと書いておくことが責任だと思います。そして、提言書の中には「これは全体に出しても大丈夫だ」というものについて入れれば良いのではないのでしょうか。

:(司会 リーダー)

時間も迫ってきたということで5つ出た、この項目で整理をお願いしたいと思います。そして15日までにこの資料を渡して目を通していただきたいので、締め切りはいつにしましょうか。

:(菊地)

金曜のお昼くらいまでをお願いします。

:(司会 リーダー)

それでは、すみませんがお手伝いできる方は手を挙げていただけますか。

:(菊地)

提言書の直しについては金曜の16時までに区役所に送っていただければ、その提言書の中に誰がどのような意見をもっているという形で書き込み、次回の会議の際にお渡します。よろしく願いいたします。

:(司会 リーダー)

それでは本日はこれで終わりにします。

マトリックス作成者：野原、森田、田谷、小原、小林、長谷川

第22回

日時：平成18年5月15日（月）

午後1時30分から午後3時30分 予定（昼間）

場所：戸塚特別出張所 地下1階集会室